

令和4年度第2回逗子市高齢者保健福祉計画懇話会 議事録

開催日時	令和4年8月26日(木) 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	逗子市役所5階 第3会議室
出席者	<p>【参加者】 押川 哲也 (座長)、川島 星美、中西 満、加藤 克真、 田邊 笑美子、前坂 淑子、堀川 修平、千葉 宏彬 (欠席：小林 久子、伊藤 伊豆男 (副座長)、青木 雅人、)</p> <p>【アドバイザー】 秋山 薊二、松岡 晃、 (欠席：秋間 禮二、伊藤 佳子)</p> <p>【事務局】 高齢介護課長 伊藤 社会福祉課担当課長 堀田 高齢介護課副主幹 粟飯原 高齢介護課事務担当 浅羽</p> <p>【(株)名豊】 谷貝</p>
議題	(1) アンケート調査票について (2) 令和4年度第1回地域包括ケア会議の報告について (3) その他
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 出席者の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新委員の紹介 ・欠席者の報告 ・傍聴確認 <p>3. 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認 <p>(1) アンケート調査票について</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『アンケート調査票について』資料1について、アンケートの概要となります。 ・資料2 ご自宅で過ごされている方のアンケートになります。今回新しい項目として「問32 高齢者のスマホの利用について」を加えました。レイアウトを変更し見やすくした。また、「コロナウィルスにより介護保険サービス」の利用に変化があったか、サービスを受ける側、提供する側への設問を入れたいと考えています。 <p>秋山アドバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの関係、やはり特殊な2年間半でしたので、どういう実態かは 	

把握しておいた方がいいと思いました。ただし、これを改善するという言い方はできないので、ある意味致し方ないというところがありますので、その点に関してはそういう了承のもとで、サービス事業者が感染して動けない状況になっているのに、何とかしますと無責任なことは言えませんので、そういう前提で、実際はどうだったかを把握するためにやりたいと思いますが、それでよろしいですか。

事務局

- ・コロナ禍の影響の実態を確認させていただくということでよろしいでしょうか。その設問を他には今ないので、在宅の方と、高齢者の方を介護していらっしゃる、資料4の方も同じような設問を加えさせていただきたいと思います。

田邊氏

- ・コロナそのものの意見をもらいたいならコロナで困ったことを単独の方がいいのではないのでしょうか。要介護で入所されている方の中に入れるよりも、いいのではないのでしょうか。突発的に起こった2年半のことで、アンケートのどこに入れるというよりも、困ったことを知りたいという目的なら別に1個でいいのではないかと。入所されているところにももちろん入るだろうし、介護されていて、在宅で過ごしているところにももちろん入ることになってしまうと、それ1個で、別になくてもいいのかなと思う。この中のどこかに入れると決めるのも難しいのでは。

秋山アドバイザー

- ・指摘がありましたが、資料3の設問34が既にあります。これは施設に入所している方に対するものです。

事務局

- ・設問を増やして、介護保険サービスに滞りが出てしまったかどうかを聞かせていただきたいと思います。

中西氏

- ・施設入所の方は設問があるので、在宅の方と家族、介護者の方がコロナによって、どういう影響があったか、生活に困ったことがあったのかというのを付け加えていただければ、それぞれの立場で、感染症の中でどういう問題があったのか、全部が介護保険に影響するかは別として、高齢者の生活にとってどういう影響があったのか、その設問に入れていただければいいのではないのでしょうか。ご自由にお書きくださいというのは、在宅の間33番にあります、その前か後。介護している家族の方も問25番の成年後見ですけども、その後に同じように入れていただきたいと思います。

川島氏

- ・今のコロナのアンケートとは趣旨が違うと思います。これはあくまでアンケートではなく、介護に対する要介護者、それから家族の方等への介護に対するアンケートであって、そのためにコロナの影響によって、それがどのように影響したかは当然知っておくべきことだと思いますが、皆さんおっしゃっていた通り、これはずっと続くわけではなく、また違った形で何か起こるかもしれない

ので、全く別のものとして、ケアマネージャーや、介護支援のほうの方でも、そのような何か困ったことはあったと思います。全く別のものとして、実態を知るために、別刷りで実施したほうがいいのではないのでしょうか。設問を増やしてしまうと、私もやったからわかりますが、選択肢が増えると逆にわからなくなります。私は全く別なものとして、皆さんに同じように問いかける術があるといいのではないかと思います。

事務局

- ・今のお話ですと、このアンケートその中にコロナについて、どのようにしたらいいかという項目が一つあった方がいいということでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・高齢者の意見を聞くという意味ではそれでいいですが、我々の立場としては介護サービスが滞りなく行ったかどうか、もしそうでなかったらどこに問題があったかどうかを調べる必要があります。ただ、さっきも言った通りそれを次回の計画で直す、改善するとは言えませんが、どういうところのサービスに問題があったか、足りないところがあったかは把握したほうがいいのではないかと思います。それはそれで別に生活には困りましたかという話については、本当のことを言うとみんな困ったと思うんですね。高齢者ばかりではなく、だから、意見を聞くのはいいのですが、それとは別に介護サービスのところで、どういう影響を受けたかということは、施設側も色々困ったと思いますので、そういったことを把握しておいた方がいいという趣旨で私は提案しております。むしろ川島さんのいうことはよくわかりますし、その通りだと思います。

中西氏

- ・私はやはり、感染症が拡大したときに、主に介護予防事業、サロンなども含めて縮小して、利用が出来なくなった、行く場所がなくなった人たちが増えました。場合によっては訪問、通所介護も含めて利用しにくくなったという側面もあります。そこについて本人たちはどう思ったか、家族としてもどうだったか、出来れば聞いてほしいと思います。

押川座長

- ・単純に文章に差し込むよりは、一番上の家族が云々、最後に高齢者全般についてコロナに対しての云々、どこに差し込むかというよりは、もう一項目増やすという感じでやれば、田邊さん川島さんがおっしゃっていた別の切り口としてはいいのではないのでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・自由記述でいいのではないのでしょうか。

田邊氏

- ・自由記述だと出てきません。

押川座長

- ・在宅なんかは中西さんがおっしゃっているような、サロンがなくなったとか、特に高齢者だから最初の1、2年は外に全く出ないというお話もうかがいまし

た。想像するようなことでチェックは増えていくのではないかと、事業所であれば、デイサービスの利用日書いてあったという話も出ています。施設だと、ボランティアさんの話や外出できないといった、一般的なことでちゃんとチェックは入るので、その上で最後にその他ありますかの自由記載という気はします。

秋山アドバイザー

- ・デイサービスは落ち込みましたか。

押川座長

- ・大規模のデイサービスはNOというのは世の中の流れです。

事務局

- ・皆様のご意見を踏まえて、言葉は変わるかもしれませんが、コロナ禍で生活にどんな影響があったかということ、一つはアンケート形式で、介護保険サービスの利用上で困ったことを選んでいただくのと、もう一つは自由記載ということで、皆さんいろいろな意見があると思います。それを見させていただくということによろしいですか。

秋山アドバイザー

- ・それが落としどころだと思います。

事務局

- ・すべてのアンケートにそのようなものを載せることによろしいですか。

秋山アドバイザー

- ・資料2についてはよろしいでしょうか。

松岡氏

- ・問25番の運動・外出の項目ですが、横断歩道を青信号のうちにわたり切れるかどうかもいれてほしいです。

秋山アドバイザー

- ・横断歩道は、片側1車線と2車線と色々あります。運転する側として思うのが、2車線や4車線といった長いものだと、青信号になっても全部渡り切れないうちに赤信号になってしまいます。そういう人もいるのでずっと待ってないといけません。横断歩道を青信号のうちにわたり切れるという意味でいいですか。

事務局

- ・選択肢を増やします。

中西氏

- ・問29番の1、利用量を支払うとありますが、量ではなく料の誤植です。
- ・それから問29番で当事者がどういうサービスを利用したいのかということで、施設サービスについての説明があります。在宅系のサービスについて聞かれて、小規模多機能型居宅介護や定期巡回などの意味がわかるのかが気になります。簡便なものでも説明があれば、選択がわかりやすいのではないかと思います。意見求めます。29-2-2です。

川島氏

- ・ご指摘についてですが、この項目が全部一緒になっています。例えば、訪問看護や訪問介護、訪問入浴介護という、実際に受ける部分と、用具の貸与や住宅

改修などは同じ介護保険ではあるが、ちょっと違います。だから例えば、この選択肢が一つの枠に16あると余計わかりづらいと思います。内容によって二つに分けるなどされると、その中で自分が受けているものが、訪問介護なのか、訪問看護なのか、通所かりハビリなのかという項目が選べますし、住宅改修というと別になってくると多少わかりやすくなると思います。

事務局

- ・ここはレイアウトを改めて考えさせていただきます。

川島氏

- ・横断歩道の件についてですが、青信号だけではなく、道路を横断する際に危険を感じることもある、間に合わないことがあるというように、信号機だけではないので、考える余地が広がると思いました。

田邊氏

- ・逗子市の方は自由なので、必要かもしれません。突然普通に横切ってくるので、歩行者優先とこの間も言ったが、本当に自由。逗子に入った瞬間から後ろ見ないで横切るので、ちゃんと渡れるかというのはあったほうがいいかもしれません。そういう設問があってわたり切れないと思ったときに考えると、ここは渡ってはだめということになりやすいです。歩行者や自転車にとってはとても自由な市。運転者にとっては危険な市だと思います。逗子市の方は渡り切れるかそうでないかというのは、横断歩道関係なしに危険を感じたことがあるか、特別な意見も出てくるかもしれず、それは逗子市ならではだと私は思います。

事務局

- ・運動能力を聞いているので、青信号などのある程度限られた時間の中で渡り切れるかどうか、歩行のアセスメントということでもないが、具体的に何秒とは書けないので、目安としてなんとなくイメージしやすい。例えば何メートルを何秒で歩けますかというのは書けないので、日常生活で困らないと言ったらやっぱり信号で渡り切れるくらいの脚力があるかどうかを聞くのがわかりやすいと思いました。色々な意味での判断力が欠けているのか、自分は大丈夫と過信しているかどうか。

秋山アドバイザー

- ・資料2について、そのほか何かありますか。

松岡アドバイザー

- ・性別に「その他」はありますか。

事務局

- ・今の時代では答えたくない方がいらっしゃるので必要だと思いました。

秋山アドバイザー

- ・括弧にして答えたくないにしたらどうでしょう。

中西氏

それではニュアンスが違うと思います。

田邊氏

- ・その他で書けばいいと思います。

中西氏

- ・行政への申請書類等で性別欄を削除する自治体が出てきています。そうした配慮も必要な時代ではないでしょうか。

事務局

- ・介護する側で女性がどうしても多くなりがちになるところは浮き彫りにさせなければならぬと思います。次回のアンケートではもしかしたら性別を聞く時代は終わっているかもしれません。

川島氏

- ・現在逗子市で他のアンケートをするときにはこういう項目についてはどのように記載されていますか。

事務局

- ・男女その他です。聞いたのは男女共同参画のアンケートを実施した所管です

秋山アドバイザー

- ・高齢者にも要りますかね。

川島氏

- ・40代の方もいます。

秋山アドバイザー

- ・それではよろしいでしょうか。

では次「資料3について」お願いします。

事務局

- ・2ページの問3で、親族はどちらにお住まいですかについて、「近所」ではなく「市内」です。問9も同様です。5ページの問19-1の不満な点は何ですかの中の「総合的な印象」というのは、回答としてはよろしくないもので、これは「その他」というところで、自由に書き込んでもらおうと思います。

田邊氏

- ・であればここに「わからない」とあるがどうなのか。

事務局

- ・問18の「わからない」を削除して、何かあれば7番の「その他」のところに書いていただく。7ページの外出・社会参加についても、運動能力を見ると問31、さっきと同じような質問ですので、同じを選択肢として、青信号を入れたほうが良いと思います。入所していても介護度はまちまちです。同じ設問なら同じ選択肢のほうが良いのではないのでしょうか。

押川座長

- ・難しいところで、施設の利用者で言うと、施設の利用者が答えられる人はほぼいないと思います。結果的に職員やケアマネ、相談員が答えて、家族の家に届くのでいいですが、抽出した100人がどこに住所があるかという、なかなか難しいです。施設の利用者がもし答えるのであれば、連れていってもらえない話だと思います。もしそういうのを含めると付き添いの人間がいないです。

事務局

- ・例えば外出を控えているという問31-1という選択肢があります。その中に同

行してくれる人がいないとか、「その他」があればそこに書いていただいて。

押川座長

- ・施設の相談員がそこに○をつけて同行者がいないとは多分書きません。施設だけじゃないと思いますが、それがあれば同行させられないというところで相談員は○を付けるかもしれませんし、そこまでして聞きたいのかと思います。あいまいにすると施設職員は書かないと思います。

中西氏

- ・問 31 は身体機能を聞いていますよね。5メートル以上歩ける歩行能力があるかを聞いていますよね。前の設問とは外出しない理由ではなくて、入所者の身体機能だと思えば良いのではないかと私は思います。

田邊氏

- ・外出・社会参加という項目の中で答えていくことを考えるとそれだけじゃないです。ADL の状況で、どのくらい動けるかを見るのとはちょっと違う気がします。

中西氏

- ・椅子に座った状態で捕まらずに立ち上がるとかあったのでそう思った。手すりや壁につかまるといった項目も。そこはこだわりますよ。

事務局

- ・問 30、31-1 についてももう少し精査したほうがよろしいでしょうか。

押川座長

- ・施設のことで聞くのであれば階段を使う利用者はいらっしやらないと思います。

川島氏

- ・施設の利用者に対してのアンケートなので、外出を控えているというのは自ら外出を控えているということですので、在宅であれば自ら外出を控えていることとなりますが、施設の利用者だと外出を控えているというのは自らの意志でできるかできないかと言ったらほぼできません。誰かが付き添いがあるって外出する機会があるかないかということではないかと思います。単に外出を控えているのではなくて、外出する機会が少ないとかいうことなのか、自らの意志ではないという風に考えますけど、前回どうだったかはわかりません。

事務局

- ・前回と同じです。

川島氏

- ・今回見直していくうえで疑問を持ったので、そのあたりの全く同じ設問である必要はないわけで、状況が違います。なので、ここは在宅の方と施設入所者と説明が同じである必要はないと思います。

田邊氏

- ・問 31 と 32 は逆のほうがいいです。問 32 が先にあって、ほぼ毎日というのがあるほうがまだいいと思います。外出する頻度がどのくらいなのかがあって、それでどういう動きができるになるほうが答えやすいし最初から外出しないので

あれば、答えずに済みます。ただADL、身体能力を問う形であればまた違ってきます。外出にとってもこだわっていますが、施設の中でも動く楽しみはありますから、そうするとまた違う関わりかと思えます。

中西氏

- ・アンケートの対象が養護老人ホームや、サ高住など、特定施設も入りますね。そういう人の場合は該当する質問と思われそうです。

田邊氏

- ・逆でいいです。それでも、毎日外出しているかといったことを聞いてから、ほかの項目を聞くのがいいと思います。

秋山アドバイザー

- ・まず外出の頻度を先に持って来て、少ない場合はその理由を何かという聞き方のほうがいいと思います。改善という意味ではいい意見だと思います。外出を控えているというのも、外出する機会が少ないとか、そういう表現のほうがいいですね。ただ少ないの定義は何になるかという話になります。

中西氏

- ・問 17 番ですが、施設等での生活について、他は複数回答ですが、ここはなぜ単数回答なのでしょう。リハビリも行っているし、趣味の活動をやっているし、仲間とお話している人もいますので、どれにつければいいのでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・当てはまるものすべてに○でいいと思います。
- ・先ほどの外出の件については整理できますね。
- ・その他何かありますか。

押川座長

- ・問 34 施設に入っている方、特養はそうですが、違うところで聞ける可能性はゼロではありません。軽費など

田邊氏

- ・施設よりも家にいるほうが多い。

中西氏

- ・同居していない家族が施設に面会に来るなどの交流機会が増えたということですか。

押川氏

- ・面会制限を軽費なんかは外出の自由というところもあります。

秋山アドバイザー

- ・面会制限はしなかったのですか。

押川氏

- ・軽費のところではないところがありました。

田邊氏

- ・結構多いです。外出することに制限があるから家族と一緒に過ごす方が、むしろコロナという状況だからいいということがある。

押川座長

- ・そもそも逗子に住所があって施設に入っている人もいるからということですね。

秋山アドバイザー

- ・問 34 はこれでよろしいですか。他に何かありますか。なければ資料 4 の説明をお願いします。

事務局

- ・4番は介護をしている側の方に対するアンケートです。訂正で、3ページの間 10、どこで生活していますかのところの、選択肢1番の在宅というのが日本語としておかしいので、「自宅や親族の家」にしたいと思います。5ページの間 15、要介護者のケアマネージャーとよく連絡している人はどなたですかは、4番のヘルパーは選択肢としてふさわしくないのも、もしヘルパーさんがケアマネさんに連絡しているという人がいれば「その他」にヘルパーと書いてもらえればと思います。4番の選択肢を取りたいと思います。たたき台を作った際のミスですが、6ページの間 18、移送サービスの設問は前回のアンケートのメインでしたが、ここはもう聞く必要がないので、問 18, 19, 20 は削除させていただきたいと思います。

秋山アドバイザー

- ・移送サービスをやめてしまったのですか。

事務局

- ・移送サービスは拡大しましたので、その役割は終わりました。今回は載せなくてもよいとしました。

中西氏

- ・なぜ問 20 まで消しましたか。

事務局

- ・問 20 は残してもいいですね。すみません。このまま自由記載欄を残します。

川島氏

- ・問 18 のご存じですかという設問はあってもいいのではないかと思いますが。知らない方ももしかしたらいっちゃう可能性もあると思います。知っているけど使ったことがないとか、ここはきちんと伝わっているかどうかということを知ることがあると思います。

事務局

- ・基本的にはケアマネがついているので、掲示があるはずですが。要介護者はこういうサービスを使えば、もっとこの人にとっていいかというのをケアマネージャーさんが判断して下さって、そこでケアプランの中に移送サービスというのを入れるはずですが。あくまで移送サービスはケアプランに基づいたものになるので、ケアマネがプランを作ったところにこの方にこのサービスが必要かどうかというのを入れていきます。

秋山アドバイザー

- ・ケアマネ次第ですね。ケアマネがこういうサービスがありますがどれにしますか、あなたはこれが必要ですよということを言ってくれますね。

中西氏

- ・家族が知っていて、そういうサービスがあれば、ケアマネとプランを作るときに希望するということはあり得ますね。

川島氏

- ・知っていることと、それが必要だと判断するのがケアマネ。

中西氏

- ・希望について。ケアマネのところですが、どういうプランを作るにあたって、誰と話をするかの設問があります。家族の意向や本人の生活実態の中で、ここが困難というところがある。18番は、こういうサービスがあるという周知的な意味はあるかもしれません。

秋山アドバイザー

- ・見解としては、ケアマネはほぼ知っていると、家族の方で知らない方はいるかもしれません。その方に知らせるためにこれを入れたほうがいいのではないのでしょうかと、まとめるとそういう意見になりますが、どうでしょう。

川島氏

- ・市としては拡大して定着していきつつあるのでもういらないという判断ではありますが、ちゃんとそれが伝わっているかどうかということを知るすべではあるかと思う。これを突っ込んで、色々な細かいところまでする必要はないと思いますが、前回アンケートを取ってそこから3年間拡大してきたから、それをちゃんと伝わっているかどうかということは、知ってもいいのかもしれませんが。その辺は判断に任せます。

事務局

- ・全体の質問数のこともあるので、皆さんにご負担を掛けないように精査します。

秋山アドバイザー

- ・問18番はペンディングでご意見は残したほうがいいですよということですね。問19は削除、問20は残すということですね。その他何かご指摘ありますか。では、次にケアマネの個別調査についてです、ご説明をいただきます。

事務局

- ・資料5についてはケアマネージャーに対してのみ調査をさせていただきます。基本的には前回と全く一緒の内容になっています。

秋山アドバイザー

- ・対象は逗子の高齢者に関わるケアマネ全員ですか。サンプルサイズの話です。

事務局

- ・資料1の調査概要に、280名程度と考えています。

秋山アドバイザー

- ・これは全員という意味ですか。調査には全員やるものといくつか抽出するものがあります。全員対象と書いてある。全員でやる必要がありますか。

川島氏

- ・前回前々回の調査の際、ケアマネさんの回答率がすごく悪かった気がしますがいかがですか。

事務局

- ・ケアマネの前回の回収率は 63.8%です。

川島氏

- ・63%というのはアンケートの回収率としては悪くないですね。

秋山アドバイザー

- ・今まで全員でやってきたからまた全員でやるということでもいいですが、統計学としては、全員やるのとサンプルを取ってやるほとんど変わらない時もあります。なんでも全部取ればいいというものではないです。600 人いるとすれば 300 人とれば大体の動向がわかります。後で問題にして先に進みましょう。

事務局

- ・基本的には前回と全く内容を変えていない質問です。ケアマネジャーの介護職と同じで、いなくなりつつあります。率直な意見をもらえればいいかと思いますが、いままでずっとこの内容で来てしまったので、今回はあえて変えませんでした。

田邊氏

- ・ほかには先ほど逗子市独自のというのがここに入ります。ケアマネジャーさんたちが知っているべきことで、逗子市独自の移送サービスというものがある。それについて、ケアマネジャーさんたちのアンケートの中に、入っているのかなど。

事務局

- ・9 ページで設問しています。

秋山アドバイザー

- ・そのほか何かありますか。

松岡アドバイザー

- ・問 57 番の困難なケースの中で、今問題になっているヤングケアラーについては確認しなくていいのでしょうか。

事務局

- ・ヤングケアラーは本質的課題として入れたほうがいいと思いますので、この選択肢の中にもう一つヤングケアラーの問題について、選択肢を一つ加えます。

秋山アドバイザー

- ・それはいいことです。もう一つ言うと、大人の引きこもりもあります。高齢者の介護のケアマネが、介護計画を作るときに、その中に 30～50 代の息子が居候しているケースがあります。ただ、そういうのをこういうところを出していいかどうか。ただ、一般的には問題になってきています。

事務局

- ・選択肢に 8050 問題を入れさせていただいているので、問 57 番の選択肢の 3 番です。

事務局

- ・こういったケース地域共生係でアウトリーチということで、全体的な支援ニーズがあることについて、積極的に支援していこうという話になっておりますの

で、例えばヤングケアラーがかなりウェイトを占めているということであれば、ヤングケアラーの問題についても取り組みをしていきたい。8050 問題についてそういったケースはいっぱい受けております。もし深刻なケースがあればケアマネさんにあたって、ご相談をいただくような形を作るなり、考えていきたいと思えます。

前坂氏

- ・この時点では 8050 ですが、今は 9060 です。

秋山アドバイザー

- ・一般的には大人の引きこもりと言います。

前坂氏

- ・90 で母が元気で、息子が 60 近いわけです。8050 では若いです。

秋山アドバイザー

- ・言葉を変えたらどうですか。大人の引きこもりという。

前坂氏

- ・言葉を変えたほうがわかりやすいかもしれません。

秋山アドバイザー

- ・ヤングケアラーを追加して、8050 を「大人の引きこもり」に変えるということによろしいでしょうか。そのほかありますか。ないようですのでケアマネの個別調査について終わります。続いて、サービス提供事業所の個別調査についてご説明をお願いします。

事務局

- ・これは事業サービスを提供する事業者に対するアンケートです。こちらも質問内容については前回と何も変えていません。8 ページについてはコロナを含め今日的な課題を入れていきたい。

事務局

- ・8 ページ問 19 番の BCP ですが、業務継続計画についてどう考えていますかというところを入れてさせていただきました。

秋山アドバイザー

- ・ポイントはこれを入れるけどいいですかという意味ですか。

田邊氏

- ・介護報酬が改定されて、機関でこういうことをしないといけないという形になったので、検討していいと思いますが、進めるための今こういう状況ですということでは確実に必要。

秋山アドバイザー

- ・そのほか何かありますか。

加藤氏

- ・事業所ごとにとということで、例えば、特養、デイサービス、ショートステイなど複数やっているようなところは、それぞれで答える意味合いなのか、まとめてよろしいということなのか。職員配置はまとめて出すところが多いです。部署によってはわからないと思えます。

秋山アドバイザー

- ・逆の聞き方をしますと、行政で各施設が BCP を持っているかいないかを知る必要がどれくらいあるかということです。何のために使うかということになります。

押川座長

- ・事業所というのは、特養に送ってくるのか、デイサービスに送ってくるのか、それとも法人に送ってくるのかによって意味合いが変わってきます。

事務局

- ・デイサービスはデイサービス、特養は特養です。

押川座長

- ・ショートステイ単独で送られてくると、按分しなければならないので答えにくいです。

事務局

- ・状況が変わってきていますから。

押川座長

- ・もっと言うと、国や県の調査票は年度だったりしますが、このアンケートは10月や11月という中途半端なもので、集計しなおさないといけないです。

事務局

- ・事業所の決め方については一回ペンディングさせていただいてよろしいでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・質問自体は残すということでもいいですか。

加藤氏

- ・BCPは必要なものなので、そういう確認が必要であれば。

秋山アドバイザー

- ・質問を残すけれども、あて先をどうするか、それを再考してください。同じ法人の中でいくつかの事業があるということですよ。その他何かありますか。

押川座長

- ・新事業をやりますかという項目がありますが、やめる事業所もあります。そこも聞くかなあという感じはします。3ページの3番目には、新規事業をやりますかという項目がありますが、やめますかという項目がありません。どのタイミングかにもよりますが、デイサービス撤退や供託がといったそういう話も出ている中で言うと…

田邊氏

- ・問2にあります。

押川座長

- ・失礼しました。

川島氏

- ・廃止が先に来るので、新しいサービスを提供する予定がありますかのほうが前向きな気がします。人間の心理として新たに始めることがさきに来る方がとら

え方としてポジティブではないでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・問2と問3を入れ替えればいいでしょうか。そのほか何かありますか。それではご了承いただいたということで。
- ・先ほどケアマネのところでも話した、全数調査か、サンプルで行くかという話ですが、よく見ると280名程度と書かれていて、回答率は6割とすると、170くらいですね。そのくらいだったら全数調査でやったほうがいいかもしれません。

川島氏

- ・事業所の回答率はどのくらいですか。

事務局

- ・事業所は55.8%です。

川島氏

- ・それは改善された方の数字の気がします。

田邊氏

- ・配置基準や人数を書きたくない施設が提出しないからだと思います。50%台は低いですが、そういうことで悩む施設もあるのではないかと思います。それがなければ答えるのではないのでしょうか。

押川座長

- ・どっちがいいかわかりませんが、最近の県や団体の調査はグーグルフォームなどネットで回答するものが多いです。どっちがいいかという、今の主流としてはそういうアンケートは増えてきているし、事業所としてはパソコンでやったほうが、回答率上げる一つの方法かもしれません。

川島氏

- ・それをファイルにしたものをQRコードつけてアクセスできるようにして、当然、要介護者とか家庭向けのものに関してはおそらく筆記の方が良い部分もあると思いますが、業者さんとかケアマネさんとかで、普段からそういったことに慣れていらっしゃる方がたくさんいると思うので、そういった方が、税金の節約にもなると思います。

押川座長

- ・そういうサイトを使うのか、エクセルのもので配るのかは、集計側の話になります。

川島氏

- ・アナログとデジタルの調査を並行してできるような手段、おそらく今はそれほど難しくなくできると思います。

事務局

- ・契約の関係もあり、今すぐそうですねとは言えない。答えとしては次回以降になる。

押川座長

- ・やってくださいというわけではなく、そういう方法を検討していただければということです。

秋山アドバイザー

- ・少し変わりますが、逗子市の中に情報センターはありますか。プロバイダと同じ仕事をしている部署はありますか。

事務局

- ・ないです。

秋山アドバイザー

- ・そこがあればすぐにつくれる。それは先の問題なので、考えてもらうとして。今アンケートはだんだん電子化していますね。
- ・それではご了解していただいたということで、次資料7に移ります。

事務局

- ・資料7は郵送のアンケートとは違いますので、市の介護認定調査員が、介護認定が必要な方のご自宅などに行って、介護認定が終わったあとに、この調査票で直接聞き取りをするものになります。対面ですから、その期間、これを持って行ってやってもらうので、ほぼ100%の回収率です。ご本人と立ち会っていただいたご家族の方にも聞くことができます。ほぼ生の声に近い。

秋山アドバイザー

- ・これ前回もありましたか。

事務局

- ・ありました。

秋山アドバイザー

- ・それではこれもご了解いただいたということでよろしいですか。参考にですが、何ケースくらいの答えが得られそうですか。

事務局

- ・前は508件回収しています。アンケートは1カ月ですが、これは実際に行くので、調査期間は10月から1月までの間でやっています。

秋山アドバイザー

- ・私が考えていた数よりも多いです。多いのはいいことですが、7番も了解いただいたので、アンケート調査のことについてはここまででよろしいでしょうか。では次(2)令和4年度第1回地域包括ケア会議の報告をお願いします。

(2) 令和4年度第1回地域包括ケア会議の報告について

事務局

- ・『令和4年度第1回地域包括ケア会議の報告について』

資料8に基づいて説明

秋山アドバイザー

- ・先ほどのケアマネの調査の中で280名程度ですが、逗子の中ではこんなにはいないということですね。逗子市内には何人いますか。

事務局

- ・市内の人数までは把握はしていません。

秋山アドバイザー

- ・次調査するときに市内のケアマネと市外とで分けた方がいいかもしれません。
- ・これについてご質問ありますか。人材不足について何か良い方法があるかと言われると出てきませんね。報告は了承したことでよろしいでしょうか。これで議題2 令和4年度第1回地域包括ケア会議の報告を終わります。
- ・その他について事務局から何かありますか。

(3) その他

事務局

- ・次回の会議について、アンケートは11月になったら直接郵送する形になります。今日のご意見を踏まえて、完成品を皆様にご提示して、これからこのアンケートをしますという会議の開催について、秋山アドバイザーいかがでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・コロナ禍前はやっていましたが、今は郵送でお配りしてご意見をうかがう、期間を1週間くらい確保してはどうでしょうか。皆さんがよろしければそうします。

事務局

- ・最終案をご提示させていただいて、最終的にご意見を伺うということで、書面開催でよろしいでしょうか。

秋山アドバイザー

- ・メールか何かでご意見をいただくということで。よろしくお願ひします。では押川座長にお返しします。

押川座長

- ・その他はこれでよろしいですか。

中西氏

- ・お願いがありますが、次回を開くまでに、前回の宿題だったアーデンヒルのデマンド型交通の実証実験の実施状況や、重層的支援の福祉施策分野内訳などについていくつか宿題があったので、次回11月までいつでもいいですが、次回にはそれをご報告いただきたいと思います。

事務局

- ・デマンドについて、所管にきいたところまだ結果が出ていない、目安としては9月にはホームページに載せると言っていましたので、市のホームページの方に出るかと思ひます。

押川座長

- ・そのほかありますか。この前中西さんから処遇改善事業所はどれだけとっているか、1でも2でもというのは別にしても、そんなに申請数だけ拾い上げれば難しいことではないので、その回答もお願いします。
- ・ご意見がなければ終了といたします。ありがとうございました。

閉会